

2025年1月23日(木)

老球の細道849号

### 八村塁コーチ批判問題について

会津バスケットボール協会 室井 富仁

1981年プロ野球で当時阪神のエース投手だった江本孟紀氏(現野球評論家、前参議院議員)がヤクルト戦で途中降板させられチームが負けた時「ベンチがアホやから負けた」と発言した。当時の監督中西太やコーチへの批判であり、阪神は問題発言として即刻江本選手を解雇した事件があった。プロスポーツの世界では監督、コーチ批判はご法度である。

昨年パリ五輪後に日本バスケットボール界でも世間をにぎわしたヘッドコーチ(以下HC)批判が起こった。女子代表の馬瓜エブリン選手からの恩塚HCに対する批判と八村塁選手のトム・ホーバス代表HC再任への批判である。特に八村塁選手の批判は現役NBAスター選手の批判であることから色々なマスメディアが取り上げ大きな騒ぎとなった。

一部の報道によると、八村選手とホーバスHCはパリ五輪前から確執があり、大会中も八村選手のケガで途中戦列離脱し米国へ帰ってしまった。女子の山本選手は脳震盪を起こしたが、最後までチームと行動を共にしていたのとは真逆の態度であった。

八村選手は公の場で公然とJBA批判を繰り返し、トム・ホーバスが世界レベルのコーチではないのになぜ次の五輪もHCに選ばれるのか、そしてJBA役員の報酬までも批判の矛先を向けていた。JBA会長三屋氏も火消しに奔走したようである。

1月21日、国際バスケット連盟(FIBA)が日本協会(JBA)改革のために設置した「ジャパン2024タスクフォース」が解散した。設置当時の課題であった男子トップリーグの統一、日本協会の組織統治強化、男女代表の強化体制構築が解決したからである。当時のタスクフォースのチェアマンであった川淵三郎氏はこの会見でホーバスHCの指導力を批判した八村塁の発言に言及した。「HCがダメだというのは、協会の決定は無視して何を言ってもいいんだと思っているのかな。最低限、選手が言うのは自由。だが、HCを批判するのは、プレイヤーズファーストとは何も関係ない。ぼく個人の意見としては、断固許せない」(朝日新聞1月22日)。フーテンの寅さんだと「それを言っちゃおしまいだよ!」。

一方で、選手に信頼されなくなった監督、コーチの言葉を選手は聞かなくなるだろう。かつて甲子園で優勝経験のある監督が、なかなか勝てない時代に部員に対して自分への信任投票をした。多くの部員の中でたった一人だけ不信任投票をした者がいた。その監督は即刻自ら辞任したという。指導者としての第一の問題は、選手の信頼を得られるかどうかである。

一度放たれた矢と言葉、そして失った信頼は二度と戻ってこない。松下幸之助著『指導者の条件』の中に中国の曾参(前漢時代の政治家)の言葉がある。信頼は地道な行動から。「私は毎日3つのことについて自ら反省している。①人のために考え行動しながら、かえって忠実さを欠くことはなかったか②友人との交際で信義を欠くことはなかったか③学んでもない、自分でもよくわかっていないことを人に教えたりはしなかったか」

コーチは学ぶことをやめた時、選手から信頼を失った時、潔くコートを去るべきである。